

ゼミ活動報告

「卒論発表会」

氏名 横山 遼大朗

2017年2月15日に学情センター1Fの文化交流室で5期生の卒論発表会が行われました。毎年恒例のこのイベントは、4回生になってから1年間苦心しながら書き切った卒論を、後輩たちやご両親、元カノ、大家さんなどなどお世話になった方々の前で発表する宮川ゼミ独特のイベントです。今年は例年と異なる会場で行われ、やなぎーとよしむーの親御さんも観覧に来てくださったこと、大学生活最後のプレゼンということもあり、5期生のみんなはかなり緊張していたように思います。ゼミの中でそれぞれの研究の進捗を聞いていましたが、同期の卒論を読んだことはなかったので、みんなが最終的にどんな研究をしたのか非常に楽しみでした。

今年の論文は衣笠、小松、東浦の3人がマクロデータを用いてファクトファイディングを行い、残りのゼミ生が実証研究を行いました。衣笠と小松は日本の上場企業の20年間のデータを扱って、業種別に百分率財務諸表をつくり、業界別の特性を探るというものでした。莫大なデータをまとめた後の分析に、2人が楽しそうに熱中している様子が伝わるプレゼンでした。先生がついつい口を挟んじゃうほど知的好奇心をくすぐる研究でした。がっしーとさめちゃんも仮説通りにいかなかったところから、それぞれのアイデアと執念で書き上げたという印象で、2人の考えたポイントが伝わってきました。やなぎーとにっしーはコア論文に引き続き「公募増資」の研究を行いました。先生のコメントでもありましたが、やなぎーのプレゼンは流れるように理解でき、「さすがやなぎー」と思わず言っちゃうプレゼンでした。末近とよしむーは詳しく扱わなかったコーポレート・ファイナンスの分野である企業の分社と多角化に関するプレゼンでした。初めて聞く言葉がたくさん出てきたことから、2人の勉強量の多さに驚嘆しました。その初めて聞く概念をわかりやすいように考え抜かれたプレゼンは、最後のプレゼンにふさわしいものであったように思います。

それぞれの発表の後には、先生とゼミ生からコメントと質問を行います。私の研究に対



して、たくさんの質問をいただきました。5期生全員が思っていたことだと思いますが、質問に対して話したいことがどんどん湧き出てきて、卒論に力を入れてよかった！自分の卒論が大好き！だと感じました。ご指導いただいた宮川先生と、一緒に考えてくれたゼミ生に心から感謝したいと思います。

大阪市立大学商学部
宮川研究室
宮川研究室

本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。